

第2章 大学時代の意欲の類型とその後の学修実感や進路

1. 分析の目的

卒業生調査の目的を改めて確認すると、学生時代の学びが卒業時または卒業後の知識、能力、進路にどのような関係を持っているかを確認することであった。

大学における授業等のカリキュラムの他に、学生生活に存在する様々な活動を含めると、どのような活動を積極的に行ったかは、学生によって多様であることは想像に難くない。また、そのような大学時代の経験が、大学時代の学修成果やその後の生活にも影響を及ぼしていることが考えられる。課外活動などでどのような活動を行うかは学生の自由であり、従って意欲的に取り組む活動の組み合わせにもタイプが存在し、タイプによって特に身についたと実感する内容は異なると予想される。

本章では、学生が意欲的に取り組んだ大学内外での活動と学修成果・その後の生活との関係を調べるために、卒業生調査をもとに、卒業生が学生時代どのような活動に意欲的に取り組んでいたかを類型化し、その類型と学修成果・その後の生活との関係を検証することを目的とする。

2. 分析の方法と結果

2-1. 卒業生の類型化

本章では、平成23年3月と平成24年3月に卒業した卒業生に対して卒業後5年経過後に実施した調査データを利用し、2段階で分析を行った。概要としては、まず大学内外の学習や活動にどの程度意欲的に取り組んだかを問うQ6及びQ11の19項目の回答値（「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」(1)の5件法）を用いて、卒業生の類型化を行った。結果として、7つのクラスタに分けることでクラスタの明確な特徴が見られたと判断した。（分析方法に「クラスタ分析」を用いたので、卒業生の類型のことをクラスタと称する。分析の詳細は章末の「分析方法の詳細」を参照）

図1は、意欲的な取り組みに関する19項目の回答値について、クラスタごとに平均値をグラフ化したものである。

表1は、クラスタごとに「経験しなかった」(0)以外の回答をした人数の割合（経験人数割合）をまとめたものである。

表2は、クラスタ間で各項目の平均値を比較したときに、統計的に有意な差が見られたかをまとめたものである。他の3つ以上のクラスタよりも有意に高い値を示したクラスタの番号に○を付した。

これらの結果を総合して、各クラスタの特徴を表現したものが表3である。

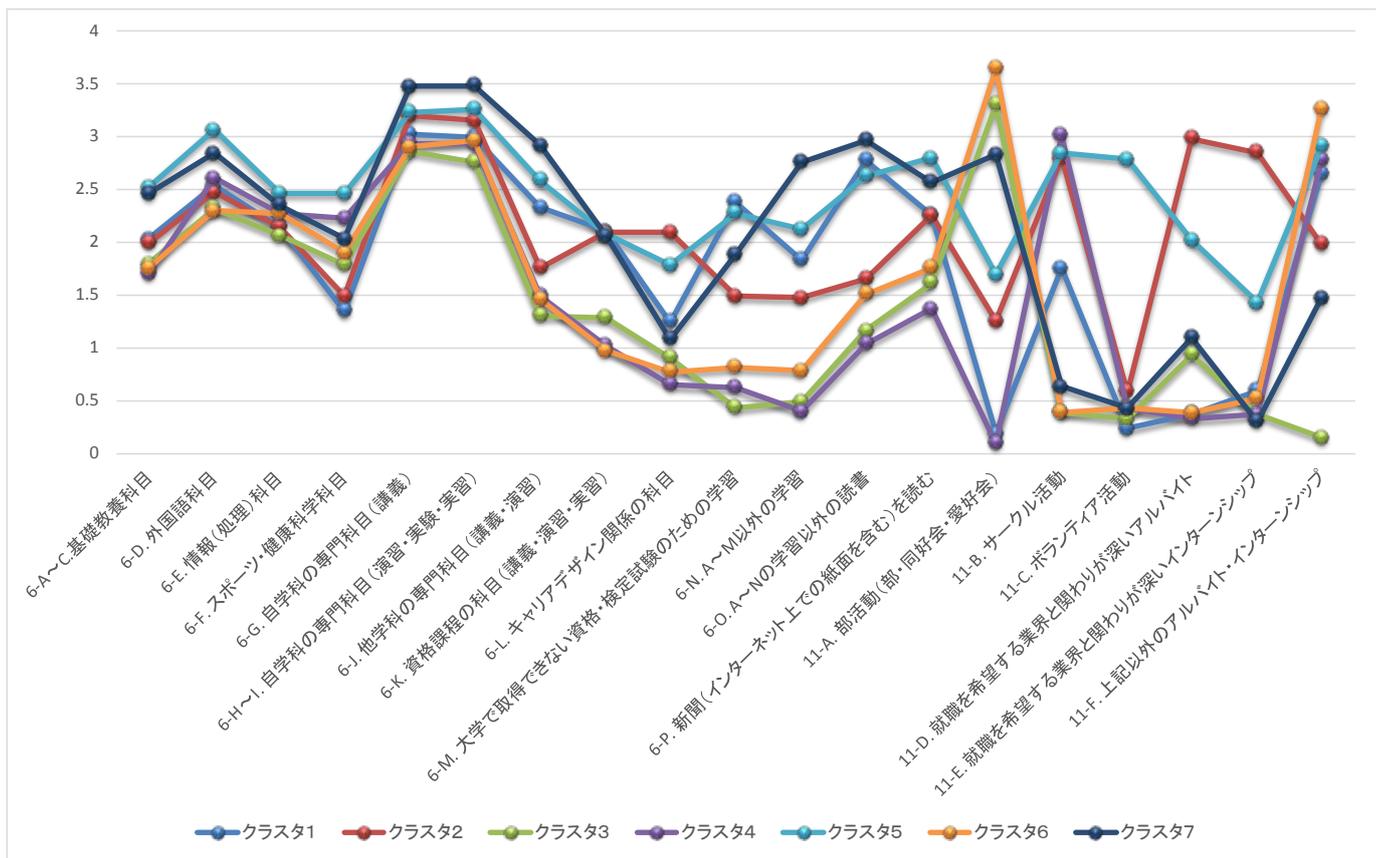


図1 意欲的な取り組みに関するクラスタごとの平均

表1 19項目の各クラス内の経験人数割合 (Q06・Q11の回答ベース)

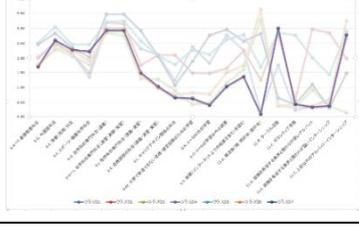
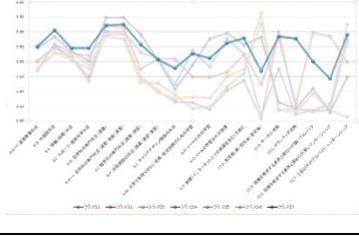
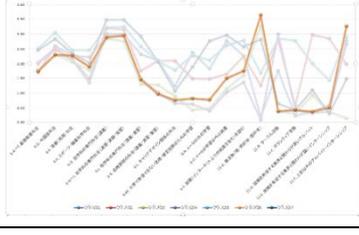
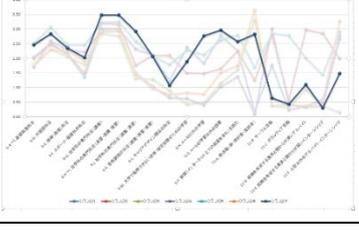
	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	クラス6	クラス7
6-A~C.基礎教養科目	—	—	—	—	—	—	—
6-D. 外国語科目	93.5%	98.2%	96.8%	98.8%	100.0%	93.0%	98.4%
6-E. 情報(処理)科目	94.8%	98.2%	98.4%	96.3%	100.0%	98.0%	98.4%
6-F. スポーツ・健康科学科目	68.8%	69.1%	72.6%	79.0%	95.4%	78.0%	85.7%
6-G. 自学科の専門科目 (講義)	98.7%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	99.0%	98.4%
6-H~I. 自学科の専門科目 (演習・実験・実習)	—	—	—	—	—	—	—
6-J. 他学科の専門科目 (講義・演習)	88.3%	76.4%	64.5%	64.2%	95.4%	64.0%	92.1%
6-K. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	72.7%	83.6%	53.2%	42.0%	78.5%	44.0%	68.3%
6-L. キャリアデザイン関係の 科目	59.7%	78.2%	45.2%	33.3%	75.4%	39.0%	52.4%
6-M. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	90.9%	60.0%	25.8%	28.4%	83.1%	36.0%	69.8%
6-N. A~M以外の学習	77.9%	61.8%	27.4%	27.2%	83.1%	40.0%	95.2%
6-O. A~Nの学習以外の読書	94.8%	76.4%	54.8%	51.9%	96.9%	66.0%	100.0%
6-P. 新聞(インターネット上 での紙面を含む)を読む	93.5%	90.9%	77.4%	74.1%	100.0%	79.0%	98.4%
11-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	11.7%	38.2%	90.3%	4.9%	53.8%	100.0%	82.5%
11-B. サークル活動	63.6%	87.3%	11.3%	87.7%	90.8%	15.0%	23.8%
11-C. ボランティア活動	13.0%	29.1%	11.3%	14.8%	96.9%	17.0%	20.6%
11-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	16.9%	94.5%	32.3%	14.8%	72.3%	13.0%	38.1%
11-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	22.1%	87.3%	16.1%	17.3%	50.8%	19.0%	14.3%
11-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	87.0%	61.8%	11.3%	87.7%	95.4%	100.0%	54.0%

表2 各クラスターの取り組み意欲に関する分散分析結果

項目名	分散分析結果 (※1)	多重比較結果 (※2)	3つ以上のクラスターと有意な差のあったクラスター						
			1	2	3	4	5	6	7
6-A~C.基礎教養科目	p<.01	C5 > C1,C3,C4,C6 C7 > C3,C4,C6					○		○
6-D. 外国語科目	p<.01	C5 > C1,C2,C3,C4,C6 C7 > C3,C6					○		
6-E. 情報(処理)科目	p>.10	—	—	—	—	—	—	—	—
6-F. スポーツ・健康科学科目	p<.01	C4 > C1,C2 C5 > C1,C2,C3,C6 C6 > C1 C7 > C1					○		
6-G. 自学科の専門科目 (講義)	p<.01	C7 > C1,C3,C4,C6							○
6-H~I. 自学科の専門科目 (演習・実験・実習)	p<.01	C5 > C3 C7 > C1,C3,C4,C6							○
6-J. 他学科の専門科目 (講義・演習)	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C5 > C2,C3,C4,C6 C7 > C1,C2,C3,C4,C6	○				○		○
6-K. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C2 > C3,C4,C6 C5 > C3,C4,C6 C7 > C4,C6	○	○			○		
6-L. キャリアデザイン関係の 科目	p<.01	C1 > C4 C2 > C1,C3,C4,C6,C7 C5 > C3,C4,C6,C7		○			○		
6-M. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	p<.01	C1 > C2,C3,C4,C6 C2 > C3,C4 C5 > C2,C3,C4,C6 C7 > C3,C4,C6	○				○		
6-N. A~M 以外の学習	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C2 > C3,C4,C6 C5 > C3,C4,C6 C7 > C1,C2,C3,C4,C5,C6		○			○		○
6-O. A~Nの学習以外の読書	p<.01	C1 > C2,C3,C4,C6 C2 > C4 C5 > C2,C3,C4,C6 C7 > C2,C3,C4,C6	○				○		○
6-P. 新聞(インターネット上 での紙面を含む)を読む	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C2 > C4 C5 > C1,C3,C4,C6 C7 > C3,C4,C6	○				○		○
11-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	p<.01	C2 > C1,C4 C3 > C1,C2,C4,C5 C5 > C1,C4 C6 > C1,C2,C4,C5,C7 C7 > C1,C2,C4,C5			○			○	○
11-B. サークル活動	p<.01	C1 > C3,C6,C7 C2 > C1,C3,C6,C7 C4 > C1,C3,C6,C7 C5 > C1,C3,C6,C7	○	○		○	○		
11-C. ボランティア活動	p<.01	C5 > C1,C2,C3,C4,C6,C7					○		
11-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	p<.01	C2 > C1,C3,C4,C5,C6,C7 C5 > C1,C3,C4,C6,C7 C7 > C1,C4,C6		○			○		○
11-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	p<.01	C2 > C1,C3,C4,C5,C6,C7 C5 > C1,C3,C4,C6,C7		○			○		
11-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	p<.01	C1 > C3,C7 C2 > C3 C4 > C3 C5 > C2,C3,C7 C6 > C1,C2,C3,C4,C7 C7 > C3					○	○	

※1 Welchの補正による ※2 Games-Howellの方法による

表3 各クラスタの特徴

クラスタ	概要	個別グラフ
クラスタ 1 (77名)	<p>【専門外や大学外の学習に熱心】 他学科や資格課程、大学外の資格、読書、新聞を読むなど、専門外や大学外での学習に特に意欲的だった卒業生。課外活動ではサークル活動に意欲的。アルバイトも就職を希望する業界に関連しないものの経験率が高い。</p>	
クラスタ 2 (55名)	<p>【キャリア志向】 資格課程、キャリアデザイン系の科目、その他の学習に意欲的。課外活動はサークル活動、大学外では就職を希望する業界に関連するアルバイトやインターンシップに特徴的に取り組んだ、キャリア志向だったと思われる卒業生。</p>	
クラスタ 3 (62名)	<p>【部活専心】 他のクラスタと比較して特に意欲的だったのは部活動のみであった卒業生。</p>	
クラスタ 4 (81名)	<p>【サークル専心】 他のクラスタと比較して特に意欲的だったのはサークル活動のみであった卒業生。アルバイトも就職を希望する業界に関連しないものの経験率が高い。</p>	
クラスタ 5 (65名)	<p>【さまざまな分野に意欲的】 自学科の専門科目と部活動以外のすべての項目において、特に意欲的に取り組んだと回答した卒業生。どの活動でも経験率が50%以上で、多種の活動に参加していたことがうかがえる。</p>	
クラスタ 6 (100名)	<p>【部活とアルバイトの両立】 部活動に特に意欲的に関わりながらも、さらに就職を希望する業界とは関連しないアルバイトにも意欲的に取り組んでいた卒業生。</p>	
クラスタ 7 (63名)	<p>【授業と自主学習、部活、アルバイト】 基礎教養科目や自学科・他学科の専門科目と、授業や資格取得とは関連しない自主学習や読書に特に熱心だった卒業生。課外活動は部活動で、就職を希望する業界に関連するアルバイトにも取り組んだ。</p>	

2-2. 各クラスタの学修成果の実感と学生生活の満足度

表3にまとめたような特徴を有する各クラスタの卒業生が、学修実感や卒業後の学習、職業の満足度等において違いを示すかを検討するため、学修実感や卒業後の進路、現在の仕事に関する設問についてクラスタごとに検討した。

2-2-1. 大学卒業段階で身につけた知識・能力

「大学卒業段階で、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができたと思いますか。」という質問の各項目について、クラスタごとに、「身についた(4)」、「しっかりと身についた(5)」と付けた割合を表4にまとめた。表4においては、この割合が60%以上のセルを青くしてこれをよく学修されたと感じられている項目、40%以下のセルを赤くしてこれを学修できなかったと感じられている項目とした。

各クラスタにおける特徴は後述するが、クラスタに共通して学修実感のある項目は、「J. 情報を収集し、整理する力(全体で70.9%が学修実感を得た)」「M. 他者の話をしっかり聴く力(全体で71.1%が学修実感を得た)」の2項目である。これらの2点は、2011年・2012年卒業の本学学生が、在学中にどのような活動に取り組んでいたとしても、学修を実感できた能力であると考えられる。反対に、クラスタに共通して学修実感のなかった項目は、「D. 外国語の運用能力(全体で19.6%が学修実感を得た)」の1項目である。これは、2011年・2012年卒業の本学学生が、大学生活を通して学修を実感することが難しかった能力であると考えられる。

表4 各クラス内の卒業段階で身についたと感じた人数割合

	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	クラス6	クラス7	全体
16-A. 専門分野の知識	67.5%	61.1%	48.4%	46.9%	70.8%	55.0%	77.4%	60.3%
16-B. 専門分野以外の幅広い知識	39.0%	46.3%	29.0%	18.5%	55.4%	34.0%	61.3%	39.1%
16-C. 将来の職業に関連する知識や技能	32.5%	48.1%	24.2%	17.3%	47.7%	24.0%	38.7%	31.7%
16-D. 外国語の運用能力	22.1%	13.0%	16.1%	19.8%	26.2%	15.0%	25.8%	19.6%
16-E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解	33.8%	31.5%	19.4%	25.9%	55.4%	25.0%	50.0%	33.5%
16-F. 目標を立てて計画的に行動する力	59.7%	64.8%	48.4%	60.5%	66.2%	54.0%	64.5%	59.3%
16-G. 自分の考えを他者に文章で伝える力	57.1%	57.4%	43.5%	43.2%	72.3%	52.0%	64.5%	55.1%
16-H. 自分の考えを他者に口頭で伝える力	49.4%	64.8%	37.1%	49.4%	63.1%	49.0%	48.4%	51.1%
16-I. 常識にとらわれることなく批判的に考える力	48.1%	48.1%	30.6%	24.7%	56.9%	34.0%	56.5%	41.5%
16-J. 情報を収集し、整理する力	72.7%	75.9%	61.3%	67.9%	84.6%	63.0%	75.8%	70.9%
16-K. 現状を分析し、課題を明らかにする力	57.1%	74.1%	58.1%	49.4%	78.1%	54.5%	66.1%	61.1%
16-L. 発見した課題の解決策を提示する力	40.3%	61.1%	46.8%	43.2%	70.8%	48.0%	53.2%	50.9%
16-M. 他者の話をしっかり聴く力	74.0%	68.5%	61.3%	66.7%	86.2%	72.0%	67.7%	71.1%
16-N. 他者と協力してものごとを進める力	62.3%	72.2%	60.7%	67.9%	84.6%	69.0%	56.5%	67.6%
16-O. 目標に向かって集団や組織を動かす力	45.5%	64.8%	45.2%	51.3%	66.2%	59.0%	37.1%	52.8%
16-P. 自分の適性や能力を把握する力	62.3%	63.0%	56.5%	55.6%	73.8%	55.0%	56.5%	59.9%
16-Q. 広い視野から人間を探究する力	53.2%	63.0%	41.9%	46.9%	68.8%	49.0%	56.5%	53.4%

2-2-2. 大学生活の満足度

「あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。あてはまるものを1つ選んでください。」という設問の各項目について、クラスごとに「やや満足している（3）」、「とても満足している（4）」と回答した人数の割合を表5にまとめた。

クラス3における「B. 教員との人間関係」以外は、すべて60%を超える高い評価であると言える。表5においては、この割合が90%を超えているセルを特に満足度が高い項目として濃い青で、80%を超え90%以下のセルを薄い青で示した。項目として、80%未満のセルが多い順に、「B. 教員との人間関係」（クラス1・2・3・4・6）、「D. 課外活動」（クラス1・2・7）「A. 大学の授業の内容・水準」（クラス3）であった。

表5 各クラス内の大学生活の満足度で3または4を付けた人数割合

	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	クラス6	クラス7
17-A. 大学の授業の内容・水準	92.2%	85.2%	72.6%	88.8%	93.8%	88.0%	92.1%
17-B. 教員との人間関係	79.2%	64.8%	59.7%	67.5%	81.5%	74.0%	82.5%
17-C. 友人との人間関係	87.0%	88.9%	90.3%	90.0%	95.4%	93.0%	84.1%
17-D. 課外活動(部・サークル活動含む)	61.0%	77.8%	83.9%	80.0%	92.3%	94.0%	74.6%
17-E. 大学での生活全般	92.2%	87.0%	91.9%	86.3%	95.4%	95.0%	90.5%

2-2-3. クラスと学修実感・満足度の関係

7つのクラスのうち、学修実感が高かったと見受けられるのは、クラス2やクラス5の卒業生であった。これらの【キャリア志向】(クラス2)や【さまざまな分野に意欲的】(クラス5)と表現したクラスでは、共通することとして、資格課程やキャリアデザイン系の科目、大学の授業以外の学習、就職を希望する業界のアルバイトやインターンシップに意欲的に取り組んでいたことが挙げられる。学修実感で尋ねた項目は、社会人として必要と考えられる能力も多いため、キャリア関連の取り組みが共通するこれらのクラスの卒業生が卒業時点で身につけていたと実感できていたことはいずれも同様である。しかし、学生生活の満足度では、クラス2の卒業生はクラス5の卒業生に比較して満足を感じていなかったようである。クラスの特徴から考えると、クラス5の卒業生はいくつかの授業科目でもクラス2よりも有意に高く意欲的に取り組んでいたため、授業に関しても意欲的に取り組むことで、学生生活の満足度が全般に高くなったといえるかもしれない。

クラス3とクラス6は特に部活動に意欲的であった卒業生として共通しており、これも学修実感としては同様の傾向であった。上述のクラス2やクラス5よりは、学修実感に乏しいといえる。学生生活の満足度を見てみると、比較的クラス6のほうが満足を感じているようにうかがえる。クラス3とクラス6の大きな違いはアルバイトを行っていたか否かである。このことから、一つの可能性として、大学外でアルバイトに取り組むことで大学から離れる時間を持ち、大学内の環境や人間関係を他

と相対的に評価する視点が持てるなどの影響で大学生活の満足度が高かったと考えられるかもしれない。

クラスタ1とクラスタ4は、課外活動が主にサークルであることが共通している。学修実感の傾向は概ね共通しているものの、クラスタ1では「自分の適性や能力を把握する力」、クラスタ4では「目標を立てて計画的に行動する力」に対してそれぞれ学修実感を得ていることがうかがえる。クラスタ1とクラスタ4の違いとして、クラスタ1はサークル活動に加えて大学内外の資格やその他の学習に意欲的であったという点が挙げられる。クラスタ1では、資格に関する勉強や自学科の専門以外の勉強に広く取り組む上で、何ができて何ができないかや自身の志向がどんなことに向いているかなどを考える機会が多かったのかもしれない。満足度では、クラスタ1は大学授業関連や生活全般、クラスタ4では課外活動や友人関係に満足している割合が高く、クラスタ1は学習面、クラスタ4は課外活動というように、それぞれの特徴が反映されていると思われる。

クラスタ7は、授業関連の大学での学習とその他の自主学習に意欲が高く、課外活動は部活動、と真面目な学生時代をイメージさせる卒業生である。彼らに特徴的なことは、「専門分野以外の知識」「目標を立てて計画的に行動する力」「自分の考えを文章で伝える力」、といった自学自習により身につく学修実感を高く持っていることと、反対に「目標に向かって集団を動かす力」ではあまり学修実感が得られていないことである。このクラスタの特徴からは、一人で真面目に学んできたことがイメージされ、そのことが影響しているように見受けられる。

2-3. 各クラスターの大学卒業後の状況

2-3-1. 大学卒業後の進路

各クラスターの卒業後の進路について、表6にまとめた。この表について、正社員、常勤の公務員や教員、大学院進学に絞ってみても、大きな偏りは見られなかった。従って、大学時代の活動のタイプによって、卒業後の進路が限定されてしまうといったことはうかがえない。

各クラスター内に占める割合として、正社員の率が最も高かったのはクラスター2（81.5%）であった。常勤の公務員等への就職について、クラスター6（14.1%）、クラスター5（13.8%）、クラスター7（11.3%）で10%を超えており、大学院へ進学に関してクラスター7（14.5%）とクラスター5（10.8%）で10%を超えており、若干の偏りが見受けられた。

表6 クラスター別の卒業後の進路

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7
正社員	53	44	44	55	41	69	33
公務員・団体職員・教員 (常勤)	6	4	6	7	9	14	7
派遣社員・契約社員	6	1	0	6	0	2	4
公務員・団体職員・教員 (非常勤)	0	1	3	3	3	1	1
パート・アルバイト	3	2	0	3	4	3	2
専門学校進学	3	0	0	1	1	1	3
大学院進学	3	2	6	5	7	7	9
専業主婦・夫	1	0	0	0	0	0	0
就職活動	0	0	2	0	0	2	0
特に何もしていない	0	0	1	0	0	0	1
その他	2	0	0	0	0	0	2
合計	77	54	62	80	65	99	62

2-3-2. 卒業後5年間の仕事との関わり

卒業後5年が経過した時点での仕事に関する設問についてまとめる。ここではまず「あなたは、大学卒業後、仕事とおおよそどのような関わり方をしてきましたか。」という設問に対する回答人数を表7にまとめた。

各クラスタ内に占める割合として、「1. 卒業後、就職し、現在まで同じ会社（官庁・学校等含む）で働き続けている」が最も多かったのはクラスタ6（69.7%）、最も少なかったのはクラスタ5（56.9%）であった。

表7 クラスタ別の卒業後5年間の仕事との関わり

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
21-1. 卒業後、就職し、現在まで同じ会社（官庁・学校等含む）で働き続けている	44	35	42	48	37	69	38
21-2. 卒業後、就職し、転職もしたが、ほぼ継続して働き続けている	16	13	13	20	17	22	14
21-3. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職したが、現在は働いている	3	2	0	2	4	2	0
21-4. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職し、その後現在まで働いていない	7	1	3	5	2	1	2
21-5. 卒業後、全く仕事をしていない	1	0	1	0	1	1	1
21-6. その他	6	3	3	5	4	4	7
合計	77	54	62	80	65	99	62

次に、卒業後5年経過時点（本アンケート回答時）での状況（表8）と、卒業直後の職業との人数差（表9、計算方法は表8－表7）を示す。

卒業直後の進路としてはどのクラスタにも存在しなかった「自営業・家族従事者」が、卒業後5年経過時点には全体で7名となった。また、正社員的人数はどのクラスタでも減少し、逆に常勤の公務員や教員的人数は増加した。大学院の人数もすべてのクラスタで減少し、多くは5年の間に修了した卒業生であると思われる。卒業直後は大学院へ進学しなかったが、5年経過時点で大学院生である卒業生は3名で、内訳は、クラスタ5で1名、クラスタ7に2名であった。

表8 クラスタ別の卒業後5年経過時点の状況

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
正社員	48	37	41	50	39	64	30
公務員・団体職員・教員 (常勤)	11	10	8	13	12	19	15
派遣社員・契約社員	3	1	2	3	3	6	6
公務員・団体職員・教員 (非常勤)	1	0	2	3	2	3	2
自営業・家族従事者	0	1	1	0	2	2	1
パート・アルバイト	3	3	0	2	0	1	0
専門学校進学	1	0	1	0	0	0	0
大学院進学	0	1	1	0	2	2	5
専業主婦・夫	9	1	2	4	3	1	2
就職活動	0	0	3	2	0	0	0
特に何もしていない	0	0	0	2	0	0	0
その他	1	0	1	1	2	1	1
合計	77	54	62	80	65	99	62

表9 各クラスターの卒業直後と卒業後5年経過時点の状況の人数差

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7
正社員	-5	-7	-3	-5	-2	-5	-3
公務員・団体職員・教員 (常勤)	5	6	2	6	3	5	8
派遣社員・契約社員	-3	0	2	-3	3	4	2
公務員・団体職員・教員 (非常勤)	1	-1	-1	0	-1	2	1
自営業・家族従事者	0	1	1	0	2	2	1
パート・アルバイト	0	1	0	-1	-4	-2	-2
専門学校進学	-2	0	1	-1	-1	-1	-3
大学院進学	-3	-1	-5	-5	-5	-5	-4
専業主婦・夫	8	1	2	4	3	1	2
就職活動	0	0	1	2	0	-2	0
特に何もしていない	0	0	-1	2	0	0	-1
その他	-1	0	1	1	2	1	-1
合計	0	0	0	0	0	0	0

2-3-3. 大学時代の学びへの振り返り

「大学時代の学びや経験は、あなたの現在の仕事にどのくらい役に立っていると思いますか。」という設問に対して、「やや役立っている（3）」、「とても役立っている（4）」と回答した人数の各クラスタ内の割合を表10に示す。

これをみると、特に部活動を経験していたクラスタ3・5・6・7では、60%以上が課外活動の経験が役立っていると回答しており、クラスタ6では80%を超える結果となった。また、情報（処理）科目も全クラスタで50%超、クラスタ5では60%を超えており、卒業後に比較的役に立っているという実感が得られる科目であることがうかがえる。

表10 各クラスタ内の現在への仕事へ役立っていると感じる人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7	全体
23-A. 人文科学系の総合基礎科目・基礎教養科目	38.4%	27.8%	16.1%	17.5%	41.5%	25.3%	37.7%	28.7%
23-B. 社会科学系の総合基礎科目・基礎教養科目	35.6%	38.9%	22.6%	16.3%	41.5%	22.2%	36.7%	29.4%
23-C. 自然科学系の総合基礎科目・基礎教養科目	18.1%	13.2%	9.7%	13.8%	21.5%	11.1%	15.0%	14.5%
23-D. 外国語科目	34.7%	24.1%	21.0%	23.8%	49.2%	28.6%	36.1%	30.9%
23-E. 情報（処理）科目	54.2%	50.0%	40.3%	52.5%	63.1%	54.5%	53.2%	52.8%
23-F. スポーツ・健康科学科目	8.5%	9.3%	11.3%	13.9%	21.5%	13.1%	11.5%	12.8%
23-G. 自学科の専門科目（講義）	49.3%	42.6%	25.8%	35.0%	58.5%	45.9%	48.4%	43.7%
23-H. 自学科の専門科目（演習）	49.3%	46.3%	21.0%	31.3%	55.4%	46.5%	43.5%	42.0%
23-I. 自学科の専門科目（実験・実習）	35.2%	35.8%	6.5%	25.0%	49.2%	31.3%	25.8%	29.9%
23-J. 他学科の専門科目（講義・演習）	28.2%	13.0%	4.8%	8.8%	40.0%	12.1%	41.9%	20.5%
23-K. 資格課程の科目（講義・演習・実習）	33.8%	33.3%	14.5%	12.5%	35.4%	20.2%	30.6%	24.9%
23-L. キャリアデザイン関係の科目	9.9%	18.5%	8.1%	5.0%	29.2%	11.1%	6.5%	12.2%
23-M. 課外活動（部・サークル活動含む）の経験	50.7%	53.7%	61.3%	55.0%	69.2%	80.8%	62.9%	63.1%

「大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありますか。」という設問に対して、「ややそう思う（3）」、「とてもそう思う（4）」と回答した人数の各クラスタ内の割合を表11に示す。

すべてのクラスタで「外国語」が70%を超え、その他「留学・海外研修」「情報（処理）」「資格課程の科目」などが、大学時代にもっと経験しておけばよかったと感じられていることが分かる。

表11 各クラスタの学習や経験をもっとしておけばよかったと感じる人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7	全体
24-A. 人文科学系の総合基礎科目・基礎教養科目の学習	46.7%	33.3%	43.5%	42.5%	56.3%	50.5%	48.4%	46.4%
24-B. 社会科学系の総合基礎科目・基礎教養科目の学習	49.3%	53.7%	48.4%	47.5%	56.3%	59.2%	51.6%	52.5%
24-C. 自然科学系の総合基礎科目・基礎教養科目の学習	42.5%	31.5%	39.3%	42.5%	45.3%	46.4%	33.3%	40.9%
24-D. 外国語	77.3%	75.9%	72.6%	72.5%	80.0%	84.7%	75.8%	77.4%
24-E. 情報（処理）	72.0%	70.4%	62.9%	67.5%	69.2%	72.4%	54.8%	67.5%
24-F. スポーツ・健康科学	25.7%	22.2%	25.8%	26.3%	41.5%	30.9%	27.4%	28.7%
24-G. 自学科の専門科目（講義）	62.7%	55.6%	54.8%	60.0%	60.0%	65.3%	54.8%	59.7%
24-H. 自学科の専門科目（演習）	65.3%	59.3%	54.8%	60.0%	61.5%	61.2%	54.8%	59.9%
24-I. 自学科の専門科目（実験・実習）	56.0%	51.9%	41.0%	56.3%	60.9%	52.0%	39.3%	51.5%
24-J. 他学科の専門科目（講義・演習）	56.0%	35.8%	30.6%	45.0%	58.5%	46.9%	58.1%	47.7%
24-K. 資格課程の科目（講義・演習・実習）	69.3%	64.8%	56.5%	60.0%	64.1%	71.4%	51.6%	63.2%
24-L. キャリアデザイン関係の学習	52.0%	51.9%	38.7%	45.0%	60.0%	46.4%	35.5%	47.1%
24-M. 課外活動（部・サークル活動含む）の経験	58.7%	63.0%	48.4%	60.0%	67.7%	57.1%	45.2%	57.3%
24-N. アルバイト	57.3%	50.0%	54.8%	50.0%	61.5%	46.9%	32.3%	50.4%
24-O. インターンシップ	51.4%	66.7%	37.1%	48.8%	60.0%	45.9%	32.3%	48.5%
24-P. 留学・海外研修	62.7%	74.1%	53.2%	68.8%	75.4%	68.4%	60.7%	66.3%

2-3-4. 卒業後の学習活動

「あなたは、現在の仕事や将来のキャリアのために、以下のような活動を1週間あたり平均でどのくらい行っていますか。」という設問に対して、「していない(1)」以外に回答した卒業生(最低でも1週間あたり1～2時間は該当する学習活動を行っていると考えた卒業生)の各クラスタ内の割合を表12に示す。

活動の割合は全体的に高くなく、クラスタ2における「職場での勉強会や研修会への参加」以外で、活動率が50%を超える項目はなかった。

表12 各クラスタ内の卒業後の学習活動の人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
22-A. 職場での勉強会・研修会	47.4%	61.1%	48.4%	40.0%	47.7%	40.8%	40.3%
22-B. 職場以外での勉強会・研修会	46.1%	29.6%	25.8%	18.8%	38.5%	25.5%	30.6%
22-C. 外国語の学習	31.6%	22.2%	22.6%	26.3%	43.1%	25.5%	38.7%
22-D. 資格取得のための学習	47.4%	48.1%	30.6%	42.5%	43.1%	34.7%	35.5%
22-E. A～D以外の学習	31.6%	33.3%	23.0%	25.3%	46.2%	33.3%	46.8%

2-3-5. 卒業後5年経過時点の仕事満足度と身につけている能力

「あなたは、現在の仕事についてどの程度満足していますか。」の設問に対し、「やや満足している(3)」、「とても満足している(4)」と回答した卒業生の各クラスタ内の割合を表13に示す。

クラスタ2では「C. 上司との人間関係」以外で80.0%を超えており、現在の仕事に満足している卒業生が多いことがうかがえる。クラスタによる差が最も大きい項目は「B. 処遇(給与や昇進など)」で、クラスタ4で58.8%、クラスタ2で81.5%と、クラスタ間で満足している割合に開きがあった。

表13 各クラスタ内の卒業後5年経過時点の満足している人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
25-A. 仕事の内容	73.0%	83.3%	77.4%	72.5%	78.5%	71.7%	85.2%
25-B. 処遇 (給与や昇進など)	60.8%	81.5%	71.0%	58.8%	63.1%	64.6%	72.1%
25-C. 上司との人間関係	74.3%	75.9%	72.6%	77.5%	73.8%	77.8%	72.1%
25-D. 同僚・後輩との 人間関係	81.1%	87.0%	77.4%	82.5%	80.0%	79.6%	82.0%

表 14 に、「現在、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけていると思いますか。」に対し、「身につけている（４）」、「しっかり身につけている（５）」と回答した卒業生の各クラスタ内の割合を示す。

表 14 各クラスタ内の卒業後 5 年経過時点で身についたと感じる人数割合

	クラスタ 1	クラスタ 2	クラスタ 3	クラスタ 4	クラスタ 5	クラスタ 6	クラスタ 7	全体
26-A. 大学で専攻した分野の知識	49.3%	51.9%	30.6%	26.3%	53.8%	33.7%	60.3%	42.5%
26-B. 大学で専攻した分野以外の幅広い知識	34.7%	37.0%	22.6%	25.0%	50.8%	32.0%	47.6%	35.1%
26-C. 現在の職業に関連する知識や技能	62.2%	63.0%	54.8%	56.3%	64.6%	59.2%	63.5%	60.3%
26-D. 外国語の運用能力	18.7%	14.8%	16.1%	22.5%	35.4%	10.2%	17.7%	19.0%
26-E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解	38.7%	31.5%	19.4%	30.0%	56.3%	36.7%	49.2%	37.3%
26-F. 目標を立てて計画的に行動する力	73.3%	77.8%	58.1%	63.8%	78.5%	65.3%	68.3%	68.8%
26-G. 自分の考えを他者に文章で伝える力	70.7%	75.9%	45.9%	70.0%	76.9%	68.4%	79.4%	69.6%
26-H. 自分の考えを他者に口頭で伝える力	60.0%	72.2%	51.6%	66.3%	76.9%	68.4%	58.7%	65.0%
26-I. 常識にとらわれことなく批判的に考える力	54.7%	57.4%	40.3%	48.8%	75.4%	51.0%	67.7%	55.8%
26-J. 情報を収集し、整理する力	78.7%	81.5%	58.1%	68.8%	87.7%	78.6%	84.1%	76.7%
26-K. 現状を分析し、課題を明らかにする力	66.7%	75.9%	58.1%	61.3%	81.5%	72.4%	72.6%	69.6%
26-L. 発見した課題の解決策を提示する力	54.7%	66.7%	53.2%	53.8%	81.5%	60.2%	65.1%	61.6%
26-M. 他者の話をしっかり聴く力	88.0%	83.3%	72.6%	78.8%	86.2%	81.6%	84.1%	82.1%
26-N. 他者と協力してものごとを進める力	74.7%	81.5%	64.5%	68.8%	83.1%	70.4%	69.8%	72.8%
26-O. 目標に向かって集団や組織を動かす力	44.0%	63.0%	46.8%	41.3%	63.1%	57.1%	39.7%	50.5%
26-P. 自分の適性や能力を把握する力	68.0%	70.4%	58.1%	71.3%	80.0%	64.9%	68.3%	68.5%
26-Q. 広い視野から人間を探究する力	60.0%	70.4%	56.5%	61.3%	81.5%	58.2%	60.3%	63.4%

表 14 における各項目は、大学卒業段階で身についたと感じる知識や能力の項目（表 4）と同様のため、卒業後の 5 年間に身につけた能力を見るために、表 15 と表 4 の各クラスに占める人数割合の差を検討した（表 15）。

表 15 各クラスターの大学卒業時点と卒業後 5 年経過時点の身につけている実感の差

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7	全体
A. 専門分野の知識	-18.2%	-9.3%	-17.7%	-20.7%	-16.9%	-21.3%	-17.1%	-17.8%
B. 専門分野以外の幅広い知識	-4.3%	-9.3%	-6.5%	6.5%	-4.6%	-2.0%	-13.7%	-4.0%
C. 職業に関連する知識や技能	29.7%	14.8%	30.6%	39.0%	16.9%	35.2%	24.8%	28.5%
D. 外国語の運用能力	-3.4%	1.9%	0.0%	2.7%	9.2%	-4.8%	-8.1%	-0.6%
E. 異文化や異文化圏の人々に 関する知識・理解	4.9%	0.0%	0.0%	4.1%	0.9%	11.7%	-0.8%	3.8%
F. 目標を立てて計画的に 行動する力	13.6%	13.0%	9.7%	3.3%	12.3%	11.3%	3.7%	9.5%
G. 自分の考えを他者に文章 で伝える力	13.5%	18.5%	2.4%	26.8%	4.6%	16.4%	14.8%	14.5%
H. 自分の考えを他者に口頭 で伝える力	10.6%	7.4%	14.5%	16.9%	13.8%	19.4%	10.3%	13.9%
I. 常識にとらわれることなく 批判的に考える力	6.6%	9.3%	9.7%	24.1%	18.5%	17.0%	11.3%	14.3%
J. 情報を収集し、整理する力	5.9%	5.6%	-3.2%	0.8%	3.1%	15.6%	8.3%	5.8%
K. 現状を分析し、課題を 明らかにする力	9.5%	1.9%	0.0%	11.9%	3.4%	17.9%	6.5%	8.4%
L. 発見した課題の解決策を 提示する力	14.4%	5.6%	6.5%	10.5%	10.8%	12.2%	11.9%	10.7%
M. 他者の話をしっかり聴く力	14.0%	14.8%	11.3%	12.1%	0.0%	9.6%	16.4%	11.0%
N. 他者と協力してものごとを 進める力	12.3%	9.3%	3.9%	0.8%	-1.5%	1.4%	13.4%	5.2%
O. 目標に向かって集団や 組織を動かす力	-1.5%	-1.9%	1.6%	-10.0%	-3.1%	-1.9%	2.6%	-2.3%
P. 自分の適性や能力を 把握する力	5.7%	7.4%	1.6%	15.7%	6.2%	9.9%	11.8%	8.7%
Q. 広い視野から人間を 探究する力	6.8%	7.4%	14.5%	14.3%	12.8%	9.2%	3.9%	10.0%

「A. 専門分野の知識」や「B. 専門分野以外の幅広い知識」は、ほぼすべてのクラスターで下降しているため、多くの卒業生は大学時代に専門分野として学んだことやその他で学んだこととは異なる分野で働いていると思われる。このことと、卒業後 5 年経過時点での「C. 現在（=将来）の職業に関連する知識や技能」の学修実感が高く（表 14）、割合の増加も大きい（表 15）ことを勘案すると、卒業後の学習内容は仕事にかかわることに集中しており、かつ内容は大学時代の学びとはあまり関わりがないことを示

唆している。クラスタ2やクラスタ5では他のクラスタに比べて同項目の割合の伸びが小さいが、クラスタ2やクラスタ5の卒業生は、3-2-3に前述したとおり、在学中から既にキャリア関連の学びに意欲的であったためだと思われる。

「A.」や「B.」に関して、クラスタ2では下降した割合が比較的小さく、クラスタ7では、大学時代の専門分野の知識は下降したといえども60%を超えている。これらの点について、クラスタ2の卒業生はキャリア関連の学びに特に意欲的に取り組んでいたこと、クラスタ7の卒業生は卒業段階で大学での専門分野の知識を特によく身につけていたことから、それぞれ大学時代に学んだ内容に近い職業につく結果となっていることが想像される。また、本調査では卒業後の仕事について雇用形態を尋ねているため、卒業生の仕事の質を見ることができないが、例えばクラスタ7では卒業後大学院へ進学した卒業生が比較的多く含まれていたことから、そのような卒業生は、卒業後5年経過時点では自らの専門性を活かした仕事に就いているのではないかと思われる。

「D. 外国語の運用能力」に関しては、学修実感があまりなくまた変動も少ないので、外国語に関する学習機会は卒業後も少なかったことが見て取れる。「E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解」もあまり大幅な割合の増加は見られない。

「F.」～「Q.」の各項目に関しては、「O.」以外は増加傾向であり、特にクラスタ6やクラスタ4では割合の伸びが大きいものが多い。クラスタ6とクラスタ4に共通して伸びが大きいものは、「G.」や「H.」、「I.」であり、自らの思考とその表現に関するものであることがわかる。「G.」についてはクラスタ2、「I.」についてはクラスタ5でも割合の伸びが大きい。クラスタ7では「M.」の伸びが特に大きい。これらは、クラスタ3以外のすべてのクラスタで、卒業段階から卒業後5年経過時点にかけて人数割合が60%を超える項目がかなり増加しているため、大学時代に十分に身につけきれなかったが社会人経験の中で身につけてきた能力とみてよいと考えられる。60%以上のクラスタが少ない項目として、「I.」と「O.」が挙げられるが、双方、卒業後5年までの間では、職場やその他で求められることがあまりなかった項目であることが考えられる。

■分析方法の詳細

① 卒業生の類型化のための項目

卒業生調査において、大学内外の学習や活動にどの程度意欲的に取り組んだかを問う以下2つの設問への回答(16+6項目)をデータとして、非階層的クラスタ分析を行った。これらの項目では、卒業生が経験しなかった場合の回答値は0であるが、分析にあたって経験の有無も重要な情報となるため、回答値をそのまま用いた。

- ・あなたは、大学在学中、大学の授業やそのほかの学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(項目計16項目、経験しなかった(0)、まったく意欲的でなかった(1)～とても意欲的だった(4))

ただし、「A.人文科学系の総合基礎科目・基礎教養科目」、「B.社会科学系の総合基礎科目・基礎教養科目」、「C.自然科学系の総合基礎科目・基礎教養科目」は、3項目の平均を「基礎教養科目」の得点としてまとめた。また、「H.自学科の専門科目(演習)」と「I.自学科の専門科目(実験・実習)」は、所属学科のカリキュラムによって科目が存在しない場合があるため、(1)～(4)を付けた項目についての平均を、「自学科の専門科目(演習・実験・実習)」の得点とした。(したがって、(H、I)で、(4, 3)と答えた場合の得点は「3.5」、(3, 0)と答えた場合の得点は「3.0」となる。)

- ・あなたは、大学在学中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(項目計6項目、経験しなかった(0)、まったく意欲的でなかった(1)～とても意欲的だった(4))

上記の計19項目について項目間の相関係数を算出したところ、絶対値で0.2を超えるものは13.9%であったため、これ以上の項目の集約は行わず、19項目によって類型化を行うこととした。

② 類型化の方法

①で記した19項目を用いて、非階層的クラスタ分析(K-means法による)を行った。クラスタ数を決定するため、3～8つのクラスタ数で分析を試行し、それぞれの群の特徴を対象の19項目と学修成果の実感値等から検討した結果、7クラスタにおいて、群の明確な特徴が見られたと判断した。(各クラスタの、19項目の平均値と標準偏差は章末の付録表1を参照)

また、各クラスタの特徴を検討するための平均値の比較(表2)は、クラスタ分析に用いた19項目を従属変数、クラスタを独立変数とした分散分析(Welchの補正による)と、多重比較(Games-Howellの方法による)を行ったものである。各クラスタの特徴を検討する際には、この多重比較の結果で他の3つのクラスタよりも有意に高く意欲的に取り組んでいたクラスタを、各項目について特に意欲的に取り組んでいたクラスタと捉えることとした。

③ 学生時代の学修実感・満足度、卒業後の進路等の設問

②で確定した類型を用いて、学生時代の学修実感や満足度と、卒業後の進路や仕事とのかかわり方、仕事への満足度などの設問への回答を類型ごとにまとめて類型との関連を探った。使用した設問は、Q16、Q17、Q18、Q19、Q21、Q22、Q23、Q24、Q25、Q26である。

付録 表1 各クラスターの意欲的な取り組みの平均値と標準偏差

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7
6-A～C.基礎教養科目	2.03 (0.99)	2.00 (1.10)	1.80 (0.76)	1.70 (1.03)	2.52 (0.77)	1.75 (0.98)	2.46 (0.91)
6-D. 外国語科目	2.53 (1.12)	2.47 (1.00)	2.32 (0.95)	2.60 (1.00)	3.06 (0.85)	2.30 (1.03)	2.84 (0.97)
6-E. 情報(処理)科目	2.14 (0.85)	2.15 (0.83)	2.06 (0.96)	2.27 (0.94)	2.46 (0.79)	2.28 (0.87)	2.35 (0.79)
6-F. スポーツ・健康科学科目	1.35 (1.12)	1.49 (1.25)	1.79 (1.43)	2.22 (1.41)	2.46 (1.00)	1.90 (1.32)	2.03 (1.22)
6-G. 自学科の専門科目 (講義)	3.03 (0.89)	3.20 (0.78)	2.85 (0.92)	2.94 (0.76)	3.23 (0.79)	2.90 (0.87)	3.48 (0.78)
6-H～I. 自学科の専門科目 (演習・実験・実習)	3.00 (0.85)	3.15 (0.78)	2.77 (0.89)	2.94 (0.85)	3.26 (0.77)	2.96 (0.77)	3.48 (0.65)
6-J. 他学科の専門科目 (講義・演習)	2.32 (1.09)	1.76 (1.23)	1.31 (1.14)	1.49 (1.33)	2.58 (0.93)	1.46 (1.26)	2.92 (1.08)
6-K. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	2.10 (1.49)	2.09 (1.31)	1.29 (1.49)	1.02 (1.35)	2.08 (1.36)	0.97 (1.27)	2.06 (1.60)
6-L. キャリアデザイン関係の 科目	1.25 (1.16)	2.09 (1.38)	0.90 (1.14)	0.65 (1.01)	1.78 (1.28)	0.77 (1.09)	1.08 (1.18)
6-M. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	2.38 (1.14)	1.49 (1.45)	0.44 (0.88)	0.63 (1.16)	2.28 (1.33)	0.82 (1.25)	1.89 (1.48)
6-N. A～M以外の学習	1.83 (1.16)	1.47 (1.37)	0.48 (0.86)	0.40 (0.74)	2.12 (1.18)	0.78 (1.12)	2.76 (0.96)
6-O. A～Nの学習以外の読書	2.78 (0.98)	1.65 (1.19)	1.16 (1.19)	1.04 (1.15)	2.63 (1.02)	1.51 (1.31)	2.97 (0.74)
6-P. 新聞(インターネット上での 紙面を含む)を読む	2.26 (0.99)	2.25 (1.14)	1.61 (1.18)	1.37 (1.08)	2.80 (0.79)	1.76 (1.22)	2.57 (0.96)
11-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	0.19 (0.61)	1.25 (1.72)	3.31 (1.28)	0.10 (0.49)	1.69 (1.72)	3.65 (0.63)	2.83 (1.45)
11-B. サークル活動	1.75 (1.51)	2.80 (1.37)	0.39 (1.15)	3.01 (1.35)	2.85 (1.20)	0.39 (1.00)	0.63 (1.27)
11-C. ボランティア活動	0.23 (0.69)	0.58 (1.03)	0.32 (0.99)	0.43 (1.07)	2.78 (0.96)	0.43 (1.05)	0.43 (0.96)
11-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	0.38 (0.93)	2.98 (1.13)	0.94 (1.50)	0.33 (0.91)	2.02 (1.45)	0.38 (1.08)	1.10 (1.51)
11-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	0.60 (1.21)	2.85 (1.31)	0.37 (0.98)	0.37 (0.87)	1.43 (1.56)	0.52 (1.18)	0.30 (0.84)
11-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	2.65 (1.29)	1.98 (1.71)	0.15 (0.44)	2.78 (1.22)	2.91 (1.00)	3.27 (0.71)	1.48 (1.53)

※ ()内は標準偏差